

計画背景：卒業論文 2021 「村野藤吾の設計手法に関する研究－建築と車路の混交－」


村野は日本のモータリゼーションの時代において，身近に自動車への強い関心をもつ者がいる状況のもと，自動車の存在や造形から影響を受けながら，建築と自動車の関係性について先駆的に設計を行ってきた人物と言える。


村野の敷地内に車路をもつ建築には車路を半屋外空間に引き込む手法が多く見られ，前期の建築主体の構成から後期の車路主体 の構成へと変化しながら継続的に行われていたことを確認した。「建築と自動車」という視点を用いて村野の設計手法の一端を示すことで，村野建築への新たな視座として位置づけることができた。


立面計画 ：水平性が強調されたファサードに対して新たな動きが挿入される 立面図 $\mathrm{S}=1 / 300$（A1）


既存建築概要：村野藤吾の読売会館






動線計画：建築と多様な速度が混交する



## 平面計画 ：現状の読売会館アイソメ図

平面計画 ：本計画における読売会館アイソメ図


## 断面計画：よみうりホールの輪郭が投影される 断面パース $\mathrm{S}=1 / 300$（A1）



多様な速度が行き交う建築のなかなよみうりホールは改めて人のための空間として位置づけられる

## 模型字真：上居階



## 各階平面図： $\mathrm{S}=1 / 500(\mathrm{Al})$






